



1 元日本代表で市出身の巻誠一郎さん、平岡教育長とパネルディスカッション 2・3 大観衆が前のめりに挙手し、思い思いに質問 4 質問した子どもたちにサイン色紙とグータッチ 5 サインをもらい喜ぶ古米冬菜さん(小2) 6 講演会后、取材陣に囲まれる森保さん



サッカー
日本代表

moriyasu hajime
森保 一 監督

宇城市で語る

あの熱戦の舞台裏

2月19日、ウイングまつばでスポーツ講演会を開催。サッカーW杯カタール大会で光る采配を見せた日本代表の森保監督が宇城市を訪れました。ふるさと応援寄付金を活用したこの事業。当日は、サッカー指導者や子どもたちなど約800人で会場は満員に。第1部では、これまでの森保監督の歩みをインタビュー。第2部ではパネルディスカッションで、小川中・松橋中の生徒や会場の子どもたちが気になる話題を質問。世界を舞台に戦った名指揮官の話を傾けました。



緊急対談 インタビュアー 平岡和徳教育長

教えて!! 森保監督

平岡教育長の1本の電話から実現した講演会。大津高校サッカー部総監督でもある平岡教育長が同じ指導者として直接尋ねました。

インタビュー
全文はこちら



選手の信頼を得るコツや
家庭でのマネジメント
力についても語る

指導者として大事なこと

平岡 森保監督がリーダーであることの心構えとか意識をされているものは何かありますか。

森保 自分自身の立ち居振る舞いとして、同じ組織にいる人やスタッフにこう見てもらいたい意識するというか自然な部分もありますが、チームのためという言動でやっていくということですね。決断をする上の何かがあった時にもチームとしての原理原則を忘れず決断していききたいと思っています。心を見せていきたいですね。

平岡 今、日本のトップチーム、ナショナルチームの監督ですが、

森保 思ってもみなかったようなアイデアやこんなことを考えてるんだという驚きがいっぱいあると思うので、すでに指導者の方々は考えていると思いますが、子どもたちのアイデアを引き出してあげる。ただ教えるだけ、一方通行になるのではなく、お互いのキャッチボールができるような関係でやってほしいと思います。

宇城市の皆さんへ

平岡 今日、実際に森保監督が宇城市の子どもたちのあの雰囲気を感じて、率直な感想を頂ければと思うんですが。

森保 宇城市の子どもたちを見て本当に生き生きとしてすごい目をしているなと思いました。質問のときに、最初はちょっと手が挙がるのが少なかったようですが、でもみんな手を挙げてくれて。子どもらしいと言うと、ちょっと失礼かもしれませんが、エネルギーがあつて生き生きしていて、すごくいいなと。

平岡 僕自身も、この町にはすごくポテンシャルがあると思っています。教育長6年目ですが、今日は同じように感じました。最後に宇



平岡教育長と熱く語る森保監督(右)



森保 一
- moriyasu hajime -

1968年生まれ長崎県出身。2003年までプロの選手として活躍後、12年サンフレッチェ広島、17年オリンピック代表の監督を務め、18年にSAMURAI BLUE(日本代表)監督に就任。

城市の指導者や保護者、子どもたちに一言。
森保 やはり、人としてと競技者としてというところを意識するのがすごく大切。私自身もサッカー選手であり良き社会人であれと監督に言われ教育を受けてきました。普段の礼節も含め、日本人が忘れてはいけない祖国への思いを持ちながらも、個々の能力や価値観を認めながら子どもを育てていってほしいと思います。

小中学校の先生方や指導者に大事にしてほしいことはありますか。
森保 いくつかありますが、一番大きいのは選手個々の能力の特徴も含めて最大限に伸ばしてほしいなと思います。チーム作りが先に来て選手の個性を生かせないということにはならないように。個を成長させながらも、誰とでもつながれるという個の能力にしていたいただきたいというところはありますね。あと、もちろん練習時間や子どもたちと接する時間は限られています。やっぱり聞いてあげてほしいですね。
平岡 認めて、聞いてあげることが大事と。